

障がい者の声を活かす！ 広報と商品開発で就労をサポート！

1 目的・概要

このプロジェクト科目は、障がい者就労支援のため「広報活動」と「商品開発」に取り組み、障がい者の就労機会を拡大することによって社会への参加促進を目的として開講されました。2023年度の同一プロジェクトでは、障がいを持つ人々が直接出演するコミュニティFMの番組を制作し、軽度の知的・精神障がい者が就労に対する思いを発信しました。また、障がい者が携わる新たな商品を開発し、その試作品を販売するとともに販路拡大に努めました。これらの活動を通じて、障がい者の就労意欲を高め、企業や社会に対する理解を進めることができました。しかし、障がい者の就労環境は依然として整っていない現状があり、重すぎる！就労に機会を増やす、環境改善、を図るためにいかの取り組みをしました次の課題として、障がいを持つ人々が自分の希望する仕事や各人の個性を活かして働けるような仕事ができる環境づくりを促進する必要性が浮き上がってきました。そこで、2024年度は、実際に軽度の知的・精神障がい者が学生と共にプロジェクトへ参画し、その思いや声を広報活動や商品開発に直接反映させることによって就労環境向上を目指して活動を行いました。また、その目的に付随して障がい者の積極的な活動参画は就労に対するモチベーションを高めるとともに精神的な支援、自己肯定感の向上を図ることに繋がりました。学生においても、障がい者と交流し思いを汲み取り、それをもとに多くの企業や団体と繋がりを通して広報活動や商品開発を行うことで、障がい者への理解を深め、社会全体の就労環境改善についても考えることができました。そして、このプロジェクトでは、障がい者就労支援A型作業所ひまわりの運営を行っている青柳 良明先生が障がい者福祉事業所や関係企業、行政機関との連携を図り、就労支援を具体的な形で進められるためのネットワークを活用することで、学生は多様な関係者と関わり、実社会で役立つスキルを身に着けました。



Annual Schedule

2024年 4月	商品設定、担当分け
5～6月	商品作成、源氏藤袴会への訪問
7～8月	商品作成、源氏藤袴会への訪問、ラジオ作成開始
9～10月	1. 藤袴のお香作成 2. ラジオ番組作成に向け、たたき台の作成、協力していただける方へのアポ取り 3. 藤袴祭への参加、試供品のモニタリング調査
11～12月	1. 最終版の藤袴お香作成 2. ラジオ番組3回分の収録 3. 番組出演者との打ち合わせ 4. 障がい者の方との実際のお香作成
2025年 1月	成果報告会に向けた準備

2 成果達成度

成果達成度としては主に2つ上げられます。一つ目は、商品開発についてです。去年の4月から障がいの方が作成に関わるうえで、特性やスキルを判断したり、社会のニーズ、事業所で作業可能である商品はどんなものであるかを源氏藤袴会、障がい者福祉事業所の方々と模索し、最終的に藤袴のお香に決めて開発を行ってきました。お香の作り方としては、たぶこ、線香、乾燥させた藤袴を練り合わせて、形を形成し、乾燥させるという流れなのですが、この三種の材料をどのよう



に配合したら、藤袴の魅力的な匂いの良さを最大限活かすことができるのか非常に試行錯誤しました。何回も配合を変えて作り直し、匂いを評価するということを繰り返しました。また、学内にとどまらず、藤袴祭に試作品を置き、モニタリングとアンケート調査を行うことによって、商品の改良に努めました。最終的には、配合を1：1：1で決定し、実際に学生と障がい者で協同して商品を作成するところまで達成することができました。

二つ目に、広報活動についてです。このプロジェクトでは、広報媒体はラジオということから、他大学学生企画や参画支援団体、市民団体主体の番組実績などの状況などを総合的に判断して、今回は「京都三条ラジオカフェ」を収録現場に選定しました。このラジオ番組は各30分の3回に分け、第一回目は中度知的障がい、発達障がいをもつたくみんさん（本人希望により仮名）、第二回目は、就労継続支援A型事業所ひまわりサービス管理責任者 中川さん 第三回目は、障がい者就労先の旅館三賀の女将 高橋さんのご出演協力をいただき収録をしました。番組は障がい者、障がい者の就労支援を行う側、雇用する側の三つの視点に分けて作成したことからどの角度からも障がい者の就労環境に向上について考えることができる非常に有意義なものになったと思います。このラジオは Spotify で番組名「生きる 障がいを持つ私がここで働く理由」で検索するとどなたでも聞くことができるのでぜひお聞きください！また、ラジオ収録だけで終わらずに、出演してくださった方々にアンケートをとり、出演後と出演前の気持ちの変化、感想を伺うことで、さらに良いラジオ作成について考えました。加えてラジオ番組放送にあたりそれに連動したX(旧 Twitter)を作り、反響を収集、私



たちが障がい者雇用についてどのように考えているのか発信することによって、時間はかかるけれど、少しずつ広がっていくことを願っています。

3 プロジェクトを通じて

私たちは、この実践的な授業形態であるプロジェクトを通じて障がい者雇用形態、需要と供給を考えた商品開発の難しさ、学外の方とのやり取り、スケジュール計画の仕方など非常に多くのことを学びました。その中でも、特に障がい者就労について考えたことが自身の最大の学びです。プロジェクト科目受講前は、障がい者に対して固定概念や偏見がありました。しかしそれは決めつけやレッテルであり、枠組みにはめないで向き合う



ことが大事だと思いました。現代は、ジェンダー問題、夫婦別姓問題、男女平等などへの様々なアプローチが行われており、社会がどんどん柔軟になっていっていると思い込んでいましたが、日本は多くの企業が人手不足で時間も無い、費用もない状況がある中で、障がい者雇用まで手を伸ばしづらいし、それ以前に障がい者の雇用形態について認識があまりない現状でした。けれども、私がお話しさせていただいた、障がい者の方々はみな仕事が好き！もっと頑張りたい！というおられる姿や国やNPO法人、企業など日本社会全体で連携をとり、まずは障害者雇用の枠組みが進められていき、お互いが気持ちよく安定した雇用が可能になり、その安定した雇用の中で、障害の方、一人ひとりに向き合い得意なこと、不得意なことを発見して、適材適所で働けるような環境ができたらしめた。私自身今後社会人になっていく立場として、この授業で学んだことを活かして障がい者の有無に関わらず協同しながら働きやすい環境づくりを率先して行なっていけるような1人になりたいと心から思いました。



編集後記

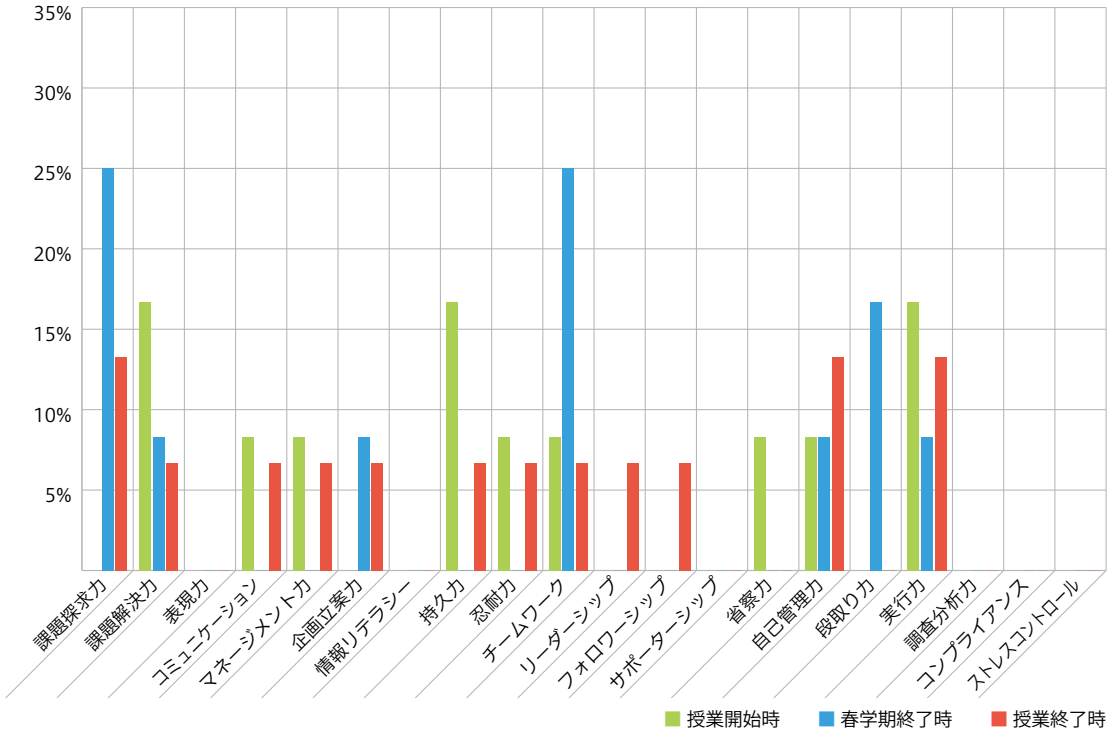
ついにこの成果報告書の編集後記を書くところまで至りました！まず初めに、科目担当者の青柳先生、障がい者の方々、プロジェクトに関わってくださった方、履修生のみんな1年間本当にありがとうございました。関わるすべての人が優しく、いつも心が温まりながら活動に取り組んでいました。時には、締め切りの課題に追われたり、お香がうまく作れなかったりなど悩んだこともありましたが、みんなが熱心に直面した問題解決に向けて動いたことで、とても有意義で素晴らしい活動になったと思います。今、この文章書きながら大変だったけど、プロジェクト科目を履修して心から良かったなと改めて感じています。この授業から得た貴重な経験を今後の活動に活かし、障がい者就労支援に貢献できるよう、努力していきたいと考えています。最後に、何回も言ってしまいましたが、本当に楽しかったです！ありがとうございました！！

プロジェクトメンバー

米田 優美香(法3) 藤原 彩七(商2) 高井 梓帆(商2) 松尾 陽香里(政策3) 池田 理佐子(政策2)
田中 綾乃(社会2)

プロジェクト活動 アンケート集計結果

Q1. チームとしてのプロジェクト活動に「必要と思われる要素」を選んでください。



Q2. プロジェクト活動を通じて実際にあなたが「身についたと思う要素」を選んでください。

